

1. 評価結果概要表

作成日 2008年9月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1292100037
法人名	有限会社ウェルフェア
事業所名	グループホーム谷津苑
所在地	〒275-0025 千葉県習志野市秋津5-5-6 (電話) 047-451-6886

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成20年9月12日
評価確定日	12月19日

【情報提供票より】(20年8月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
常勤7人(兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算 4.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	73,000円	その他	食費45,000円, 水道光熱費20,000円, 理美容代実費, おむつ代実費, その他個人で使用したものは実費	
保証金の有無(入居一時金含む)	300,000万円	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	700 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(8月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.8 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津田沼中央総合病院 谷津パーク診療所 小林歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

渡り鳥の休息地、冬鳥の越冬地として知られ、ラムサール条約登録湿地の谷津干潟の歩道に隣接している。整然と区画された住宅街の中のグループホームで、生活環境は良好だ。ホームは独身寮を改装した建物で、入居者の居室は寮の部屋をそのまま使用している。ホームには同法人のデイサービスや託児所も併設されており、徒歩5分のところにはグループホーム秋津も運営している。JR京葉線新習志野駅より徒歩12分余りの位置にあり、高速道路のIC湾岸習志野も近く、郊外形商業施設ららぽーと、大型ホームセンタービバも近隣に有り、まさに地域に密着した生活を送れるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	モニタリングを始めとする入居者に関する記録物の多さについては、従来のやり方のまま行っている。防災における地域との協力体制については、特に進展していない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員会議において、管理者・職員・パートタイマーらで、改善すべき課題はないか話し合って作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では自己評価、外部評価結果を報告する他、ホームの現況、年間行事予定などをお知らせしている。また、毎回テーマを設けて話し合いも行っている。昨年は理念の見直しをテーマとし、新たな理念を作り上げた。会議で取り上げられた課題については、職員一同で検討を行い、改善に結び付けている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	不定期に家族会を開催し、意見、要望を聴いている。また定期的に介護相談員を受入れ、家族との相談会を開催している。会に出た意見は運営推進会議で話し合ったり、ホームのミーティングで討議し、運営へ反映するよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者の半数はホームに住居登録し、地域に定着している。ホームとしては、地元自治会、老人会に加入して、月1回程度の割合で夏祭りほか地元行事に参加している。また地元小学校の運動会を見学に行ったり、中学生の職場体験を受け入れる等、地域交流を大切にしている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私達は利用者の自由と人倫を尊び、尊厳ある安全な暮らしを支援します。私達の目指すもの 認知症を進行させない支援 心の痛みを消す事のできる支援 認知症を正しく理解した専門的支援 利用者の暮らしを抑制しない支援 閉ざされた介護社会の打破」という理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	パートタイマーも含め、職員は月1回ミーティングを開いて理念を確認し、共有をはかっている。理念は法人全体の考え方でもあり、単に高齢者のお世話をするだけでなく、専門的な介護技術を身につけなければならないと考えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事に参加し、住民との関わり合いを深めようと努力しているが、一部に、認知症高齢者に対する拒絶反応もある。地元中学生の体験学習等を通じ、認知症に関する知識の啓蒙活動を行って、理解を深めようと努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価とも介護サービスの質の向上に欠かせないものと考えている。評価結果を検討し、見落とし課題があれば運営推進会議、職員会等で提起し、話し合いを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は主に行政担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、介護相談員、地域住民、家族会代表、管理者、職員等が出席して2ヶ月に1回開催している。議事録もしっかりと作成し保管されている。毎回テーマを設けて話し合い、外部評価・自己評価等も公開して、ホームとしての対応を報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政等主催の研修にはよく参加している。最近では日常生活自立支援事業、成年後見制度、高齢者虐待防止関連法 認知症介護指導者養成研修、身体拘束廃止研修等に参加した。近隣の公立小・中学生による見学、体験学習を積極的に受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会の折に職員が声掛けし、入居者の写真や記録類を提示して暮らしぶりを報告している。また毎月、写真入りの手紙を、体調やサービス提供に関する書類と併せて郵送し、近況報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見、不満、苦情は、行事と同じ日に開催する家族会議で聴取している。また毎月介護相談員と面談する機会も作っている。オンブズマン制度は取り入っていないが、今後に向けて検討しているところである。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ1年は職員の異動、退職はない。入退職が生じた際は、引き継ぎに1ヶ月の期間をもうけ、入居者への影響を少なくすべく、努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全国グループホーム協会主催の研修に参加する他、認知症の人を支援する専門職千葉連絡会のセミナーなどで職員を育てている。現在職員には、ケアマネ、看護師、介護福祉士、ヘルパー2級の資格取得者が在籍している。また職員のために休憩室を設ける他、旅行や懇親会を実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症の人を支援する専門職千葉連絡会を通じて、県内複数の同業者と関わり、他ホームを訪問したり勉強会を開催したりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学や、1泊3食付き¥4,000～¥5,000で約7日間体験入居してもらいながら、徐々に馴染めるよう配慮している。入居希望者の心身の状況、病歴、趣味、嗜好、入居後の希望などは、事前にしっかりとアセスメントした上で入居してもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の名前呼び方は、これまで家族がしていた呼び方を踏襲することが多い。入居者同士については、仲間に入れず孤立することのないよう気を配っている。入居者が亡くなった後のグリーフケア(逝去されたあとの家族に対するケア)を5年にわたり行っているケースもある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は入居時のアセスメントに加え、日々の生活の中から新たに気づいた入居者の希望や意向を申し送りノートに記入し、月一回のミーティングで意見交換し、情報の共有に努めている。入居者に選択の機会を増やし、より一層入居者の希望や意向に沿った支援ができると更によいと思われる。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者、家族、医療関係者らの意見も反映した介護計画が丁寧に作成されている。しかし多くのことを盛り込みすぎて読みづらさを感じるところもある。</p>	○	<p>誰もが見やすく、わかりやすい書面作りも大切と思われる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、入居者の状況に応じて1～3ヶ月で、緊急時はその都度見直しを行っている。定期的な見直し体制を組むよう努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームで家庭料理教室を開催し、地域に開放している。同じ建物の1階に小規模託児所があり、子供たちがホームに遊びに来ている。入居者は子供たちから元気をもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科はホームの提携医が2週に1回訪問診療している。持病などで入居以前からかかりつけ医にかかっている場合は、本人・家族の希望に沿った支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで看取った経験もあるが、家族、関係者の理解と協力のあり方や、職員全員で方針の共有をすることの難しさを改めて感じたため、今後の課題としている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報保護のための誓約書をホームに提出し、プライバシーの確保に努めている。入居者の名前を呼ぶ際には、必ずしもさんづけで呼ばず、本人の気持ちに合わせて親しみを込めた呼び方をすることもあ		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者は個々のペースで起床し、朝食を食べている。職員はホームの決まりごとを押し付けるのではなく、入居者の状況に合わせ、希望を汲み取って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員も中に入り、入居者と一緒に会話したり介助したりしながら同じ食事を楽しんでいる。入居者が自らメニューを決めたり、買い物、調理、後片付けをする時もある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯はおおよそ決まっているが、入居者の希望や失禁時など、柔軟な対応をしている。入浴を拒否する場合は理由を掴み、時間を変えたり、気分転換に近くの銭湯を利用することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の個々の力量に応じて、自分のことは自分でするように支援している。床の雑巾がけ、布団敷き、洗濯物を畳み自室のタンスにしまうなど、入居者はそれぞれの役目を持っている。入居者の個々の身体状況に応じた支援に努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは谷津干潟に面した自然豊かな場所にあり、天気や入居者の状況に応じて散歩をしている。今後は家族の協力なども得て、思い出の旅、遠出の外出なども企画中である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中開放し、夜間は防犯のため施錠している。入居者が一人で外に出たときは、職員が後ろから着いて行って見守り、迷わないようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導で、入居者の避難誘導、消防署への連絡の仕方、消火器の使い方等、必要な訓練をしている。近隣住民との協力体制は実現していない。2階の非常口が施錠されていたが、入居者がそこから出たしまわらないための安全対策として、家族に説明し了解を得ている。	○	運営推進会議等で働きかけ、非常災害時の協力体制作りが求められる。2階の非常口を施錠することで入居者の安全を守るのはわかるが、火事等、災害時の避難誘導に影響がでないよう、十分な配慮が必要と思われる。2階非常口改築の早期実現が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	男性と女性では食事量を加減したり、持病・歯の具合などを考慮して、入居者個別の支援をしている。食事や水分量は必要に応じて記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	社員寮改装型なのでバリアはあるが、職員の介護力でカバーしている。大きな文字で、トイレ、出口、風呂などが廊下から見える場所に張り出され、混乱を防ぐ工夫が見られる。玄関の鉢植えが季節感を添えている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やベッドは低目の物が用意され、足元は整理整頓されており、転倒防止に配慮されている。以前暮らしていた自宅と同じ家具の配置にしている入居者もいる。		